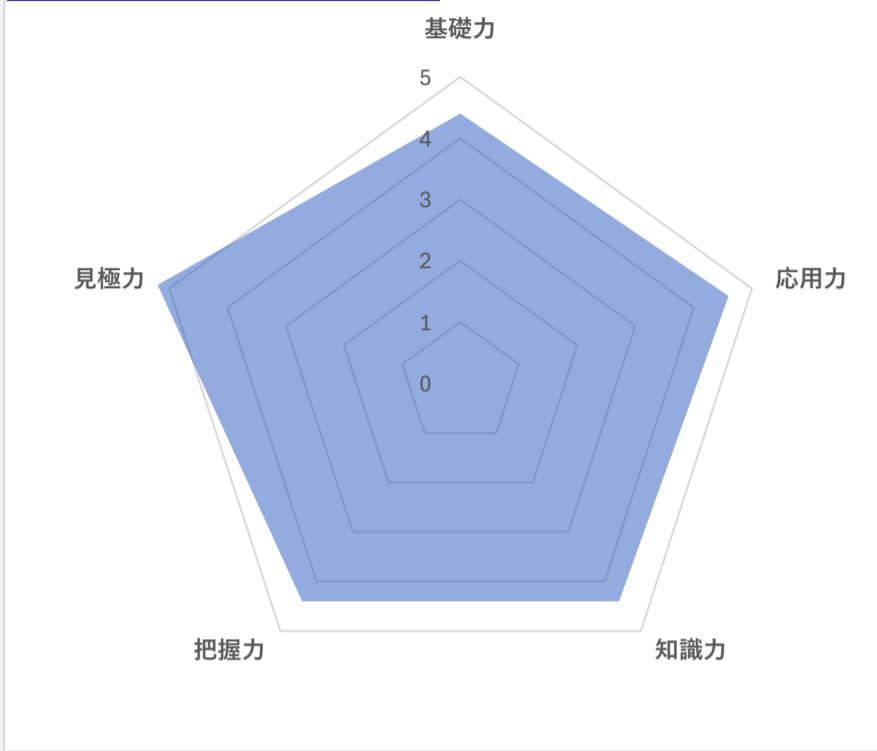


総合分析

試験区分	一般
------	----

制限時間	60分 (理科 2科120分)	大問数	全 3 問
------	-----------------	-----	-------

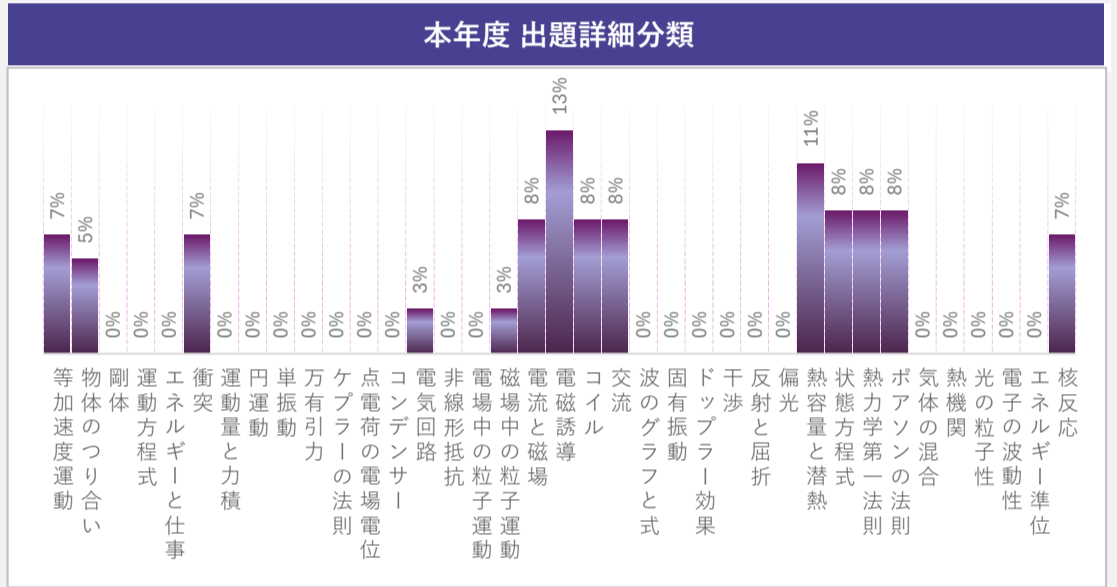
合格に要する能力 (5段階)



出題分野	
力学	19%
電磁気学	40%
波動	0%
熱力学	35%
原子物理	7%

本年度出題テーマ一覧	
第 1 問	床への無限回衝突と被曝
第 2 問	微小磁場測定
第 3 問	大気温の高度変化

本年度 解答形式	
論述	80%
答えのみ記	



合格に要する能力 (5段階)		
基礎力	4.2	原理についての理解
応用力	4.4	演習経験による慣れ
知識力	4.2	用語を正確に覚えているか
把握力	4.2	臨機応変に状況を把握する力
見極力	5.0	解きやすい問題を選択する力

特殊問題の有無	近似計算あり	グラフなし
正誤問題なし	理由記述あり	数値計算あり

特記事項: 設問による誘導はあるが難度が高く、自力でつなぐ必要がある。

総合評価			
難度	4.4	最難を 5 とする問題自体の難度	難しい
分量	92分	完答に要する時間 (制限時間は60分)	多い
一次合格に必要な正答率 (予想)			52%
標準			

入試の特徴と対策: 設問ごとにテーマが一貫しており、目標に向かう流れがある。速やかなテーマの把握が鍵となる。

入試から見る大学が求める学生像: 他の大学にあまり類を見ない「これまでの計算から考察し論ぜよ」のような問題が多い。答えを出すことだけでなく、その過程を評価することに重きをおいているのだろう。幅広い知識を持っていることは前提として、未知の現象にも興味を持って考察しようとする研究者に必要な適性をもつ学生を求めていると考えられる。